

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 韮崎市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化事例研究
3. 研究タイトル : 魅力あふれる小規模校高度学習の推進
4. 研究課題 : (1)先進的ICT環境による、発表力の向上と個に応じた学力向上に向けての授業実践
(2)少人数での英語科教育の推進
(3)外部講師による実技教科等の技能の向上（音楽、図工、家庭、体育、特別活動等）
(4)スクールバス等を活用し、中学校区を単位とする学校間の積極的な交流
(5)地域と連携した学習支援体制づくりと学校の地域への貢献を図る
(6)少人数集団である小学校から、大人数の中学校へ進学した際、人間関係が築けず不登校になることの防止

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

小規模校のメリットを生かし、デメリットを解消・緩和することにより、児童減少に歯止めをかけ、小規模校が存続していけるよう本市ならではの特色ある教育を推進していく。

小規模校ゆえにスタッフも少ないため、地域の教育環境を最大限に生かしながら、ICT機器を積極的に活用した教育実践を積み、グローバル人材の育成や次代を生きる力を育てていく。

研究内容及び概要としては、学習支援アドバイザーを用いICT機器の活用による学力向上、英語力の育成、地域人材や専門家を活用した技能教科や総合学習での実技技能の向上、学校間で教科学習にまで踏み込んだ連携による交流、地域生涯学習の場での学習成果の発表、本事業をとおしての不登校の防止等である。

(2) 調査研究の実施状況（平成30年度）

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・事務担当打合せ会議 ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・外部講師による実技指導（穂坂小:陸上指導） ・外部講師による実技指導（穂坂小:ブラスバンド演奏指導）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・同中学校区の小学校間交流（韮崎北東小⇒穂坂小） ・外部講師による実技指導（穂坂小:ブラスバンド演奏指導）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・ICT機器基礎操作法校内学習会開催（穂坂小・韮崎北西小） ・中学校での授業体験及び施設見学（韮崎北西小⇒韮崎西中） ・中学校での部活動見学（韮崎北西小⇒韮崎西中）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・第1回学習支援員ICT活用研修会 ・円野かかし祭への出展による地域との連携（韮崎北西小） ・ICT環境整備（edutab box、iPad購入） ・外部講師による実技指導（穂坂小:ブラスバンド演奏指導）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・学習支援アドバイザーによるICT機器利活用講習会開催（穂坂小・韮崎北西小） ・中学校学園祭への参加（穂坂小⇒韮崎東中） ・ICT環境整備（マイクアプタ、スピーカー等購入） ・外部講師による実技指導（穂坂小:ブラスバンド演奏指導）

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・教育研究会でのICT機器を活用した音楽の授業研究（穂坂小） ・地域施設へのブラスバンド慰問活動の実施（穂坂小） ・地域農協祭へのブラスバンド・踊りによる参加（穂坂小） ・ICT機器を活用した地域遠足事前学習会の実施（葦崎北西小学校） ・外部講師による総合的な学習（葦崎北西小:地域の歴史・文化についての学習） ・外部講師による実技指導（葦崎北西小:作曲教室）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・授業公開及び実践発表会（葦崎北西小） ・地域人材講師の指導による菊づくりの成果として「菊まつり」開催（穂坂小） ・ICT環境整備（無線LANアクセスポイント、apple TV購入） ・中学校の合唱祭見学（葦崎北西小⇒葦崎西中）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・中学校での授業体験及び施設見学（穂坂小⇒葦崎東中） ・中学校教員による出前授業（葦崎西中⇒葦崎北西小）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・第2回学習支援員ICT活用研修会 ・学習支援アドバイザーによるICT機器利活用講習会開催（穂坂小・葦崎北西小）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・推進会議開催 ・中学校校長による講話（葦崎西中⇒葦崎北西小） ・児童アンケート実施（穂坂小・葦崎北西小） ・教職員ICT機器活用アンケート（意識調査・活用力調査）実施（穂坂小・葦崎北西小） ・外部講師による実技指導（穂坂小:茶道教室） ・外部講師による実技指導（葦崎北西小:生け花教室）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校校長による講話（葦崎東中⇒穂坂小） ・中学校教員による出前授業（葦崎東中⇒穂坂小） ・外部講師による実技指導（穂坂小:ブラスバンド演奏指導） ・事業報告書の作成

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

(1) 先進的ICT環境による、発表力の向上と個に応じた学力向上に向けての授業実践

① 学習支援アドバイザーの指導助言により、校内ICT環境の整備・確認・設置・実技研修等の利用に関する意識が高まった。また定期的な授業参観を通して具体的な学習の進め方や地域との連携のあり方等についての指導を受け、ICTを活用した幅広い授業スタイルが可能となった。特にiPadを野外活動に持ち出して授業に活用する実践やアクティブラーニング型（実験・記録・考察を加えた発表等）の授業が増え、積極的に児童や教職員が使いこなしている。

② 学習支援アドバイザーによる「学びのイノベーション資料」、「ICT活用ハンドブック」を活用した、意識啓発と操作技術の向上のための職員研修会を学期毎に実施した。特に、メモアプリを活用した文字入力の基本の習得とMapの活用に向けた研修、iPadに保存されたデータの移植作業の技術講習会、Face Timeを使った実技研修、WinBirdの概略と情報モラル研修、遠隔学習の導入（ネットワークを利用した学校間交流）等は、ICTの活用をさらに広めるものとなり、これらのことが教育課程に反映されるようになった。

③ 一人一台のiPadの設置が完了し、タブレット型PCやiPadの活用方法が児童及び職員全員に周知され、児童の関心はもとより、職員の関心・意欲も高まり、授業で活用する頻度が増してきた。また、個人用のスマートフォンを活用した実践も見られた。

④ ICT環境づくりが整いはじめ、学習支援システム（edutab box）の導入、Wi-Fiの固定設置等、ICTを活用した指導方法の開発（発表力の向上と個に応じた学力向上に向けての授業改善）に目が向くようになり、一斉学習、個別学習、協働学習を意識した取組が増えてきた。

⑤ 低学年のうちから「触れる・慣れる・親しむ」を指導の基本とし、日常的にICTに親しむ環境が育ってきており、授業の中だけでなく、学校行事等でも積極的に活用するようになった。

⑥ 校内研究を通して、ICTを活用した授業実践や日常的に使用しているアプリの紹介を行う等、全職員で情報交換をしながら指導に生かしており、教育課程にも反映されている。

⑦ 今年度は、葦崎北西小学校において、「自ら学び、考え、自分の思いを表現できる児童の育成」を研究テーマとして、特別支援学級も含め全8学級での授業公開および実践発表会を行った。どの学級もICTを活用し、児童が直接ICTに触れる機会を増やし、主体的に発表したり、表現したりできるような授業を展開することができた。

(2) 少人数での英語科教育の推進

① 英語教育の質的向上を図るために、積極的にクラスルームイングリッシュを多用したり、ICTを効果的に活用したりして授業実践を行ってきた。特に本年度はALTの他に英語専科教員の配置があり、オールイングリッシュを目指した授業展開や児童一人ひとりに寄り添ったコミュニケーション活動の場が設定されるなど児童の学習意欲が高まり、活用場面が広がった。ALTやJTEとの連携による担任主導の英語・外国語活動がさらに向上した。

② 英語教育の推進とともに教員の意識の変容が見られ、授業のみならず学校集会や日常生活の中で自分の殻を破り、積極的に自己表現する教員が数多く見られるようになった。それに伴い、児童も英語を使おうという意識が高まり、給食の時間に行っている「英語によるメニュー発表」やALTとの会話等、全校に定着してきた。このような、英語を耳にする機会の設定や校内掲示物の工夫等は、英語に慣れ親しむ環境づくりとして効果を発揮している。

③ 少人数の利点として、1時間の授業の中で全員がチャンツやゲームを体験できること、ALTやJTEとの一対一の会話が経験できること、一人ひとりのつぶやきに耳を傾けられること、より多くの児童に活動の場が与えられること等、英語力向上に結びついている。また評価においてもパフォーマンス評価を取り入れた多様な評価を行うことにより、児童一人ひとりの成果と課題が明確になり、個々の習得状況に応じた指導が実践できる。6年生においては、ほぼ全員が相手が話す3文程度の英語の内容を理解し、自分のことを3文程度で表現できるようになった。

④ 29年度は穂坂小学校において「英語教育公開研究発表会」を実施し、約100名の参観者が来校した。新教材を扱った授業やICTを活用して本校独自に作成したCD（チャンツ）を使った授業は、高い評価を得た。また、児童が参観者に臆することなく伸び伸びと学習している様子や英語に不慣れな教員もクラスルームイングリッシュを使い、オールイングリッシュで頑張ろうと指導している姿に、「担任が英語を楽しみ、ALT・JTEとともにコミュニケーションを率先してとっている点は素晴らしい」という評価を得ることができた。

<p>(3)外部講師による実技教科等の技能の向上(音楽、図工、家庭、体育、特別活動等)</p> <p>①日本の伝統文化である「茶道教室」と「華道教室」を開催することにより、児童が自分と向き合う体験活動や「わび・さび」といった感覚を味わう経験は、貴重な体験学習になっている。また今年度は「陶芸教室」を実施し、陶芸家の方に丁寧に指導いただいたことにより、児童も満足する素晴らしい作品ができた。これらの活動は、ものづくりの大変さを学ぶだけでなく、キャリア教育の一環として意義あるものとなっている。</p> <p>②「太鼓指導」や「民謡指導(穂坂音頭)」において、地域の舞踊家の指導を受け、地域の民謡を理解し表現することは、児童のみならず教職員にとっても地域を知る上で欠かせないものとなっている。また、運動会での披露は、住民の郷土愛を育むよい機会となっている。</p> <p>③国蝶のオオムラサキの飼育について、オオムラサキセンターの職員を招いて学習を行った。教室でオオムラサキが羽化するまでを観察できたことは貴重な経験となった。</p> <p>④山岳会(白鳳会)や森林インストラクターの指導のもと、茅が岳登山を5年生が毎年実施している。総合的な学習との関連を図りながら、自然観察等の生態系についての学習や環境学習も取り入れ、ユネスコエコパークとしてのESD教育にもつながっている。</p> <p>⑤体づくり教室を、低・中・高学年毎に開催し、体育専門家の指導のもと、発達段階に応じて楽しく活動することができた。児童の運動量の不足や身体の硬さに関する課題を把握することができ、その後の取組に生かすことができた。</p> <p>⑥外部講師(地域の高齢者)による「菊づくり」は、長い伝統になっている。総合的な学習の時間の中で、苗から菊(三本立て)を育てることは並大抵のことではないが、本校の特色ある栽培活動として6年生から5年生に毎年引き継がれている。</p> <p>⑦本校の伝統である「ブラスバンド活動」を年間12回実施した。楽器演奏者の専門的な指導によって、児童の演奏技術はたいへん向上しており、5・6年生児童による校歌の演奏は、入学式・卒業式・運動会・菊まつり等の学校行事だけでなく、地域行事でも披露しており、穂坂地域の宝となっている。</p> <p>⑧児童はブラスバンド演奏に自信をもって取り組んでおり、「中学校でも吹奏楽部に入学したい。」と語る児童が多く、中学校生活に希望を抱いている様子がうかがえる。また、ブラスバンドに限らず様々な外部講師の方々から指導を受けたことにより、自分の得手不得手を知ったり、興味を抱くような体験を行ったりしたことにより、自らを再認識することができた。これらの体験や経験から、自分の将来の夢を語るができる6年生が増えている。</p>
<p>(4)スクールバス等を活用し、中学校区を単位とする学校間の積極的な交流</p> <p>①葦崎東中学校の生徒より穂坂小学校6年生へ学園祭の招待状をもらい、多くの児童・保護者が参観した。また児童の中学進学後の様子を把握するために、教職員数名も参観した。</p> <p>②葦崎東中学校での英語授業研究会に教職員代表が参加し、実態を把握するとともに、中学校1年生の英語授業に6年生児童が体験参加し、中学生と一緒に英語の授業を受けた。</p> <p>③葦崎東中学校陸上部の生徒による「陸上指導教室」を、穂坂小学校6年生の児童に対して毎年行っている。年齢に近い先輩による指導のため、練習方法や競技に向かう姿勢等、和気藹々とした雰囲気の中で実技指導が行われ、児童の運動技術や運動能力の向上に結びついた。</p> <p>④葦崎北西小学校の児童が葦崎西中学校の施設見学や部活動見学を行い、小学校との違いを体験し、また、合唱祭を見学することにより、中学生の豊かな表現力に感動し、進学への期待がより高まった。</p> <p>⑤小小連携では、葦崎北東小学校3年生が毎年「朝穂堰」の学習を兼ねて穂坂小学校に立ち寄った際、両校の3年生同士で交流(学校紹介やレクリエーション等)を行っている。今後は、事前・事後における授業交流(Web会議・遠隔授業)へとつなげていく予定である。</p> <p>⑥ICTを活用した近隣の学校との授業交流は、葦崎東中学校の1年生徒と穂坂小学校の6年生児童による授業交流(Web会議・遠隔授業)を実施し、交流を図っている。「もうすぐ中学生」という意識の芽ばえから、中学校生活について質問をしたり、部活動について教えてもらったりしながら、中学校進学に向けて見通しを持つことができた。これにより、児童の不安や心配が楽しみに代わり、児童が夢や希望をもって進学できる取組の一つとなっている。</p> <p>⑦芸術鑑賞の一環として葦崎高校との交流を行った。ブラスバンド活動を伝統とする穂坂小学校児童にとって、高校生の演奏はお手本であるばかりでなく、やがては自分も高校生のように色々な楽器を演奏したいという思いを抱く貴重な経験になった。</p>

(5) 地域と連携した学習支援体制づくりと学校の地域への貢献を図る。

- ① 1年生の入学を祝い「入学記念植樹」を毎年行い、町の振興協会や市の関係課、穂坂自然公園の方々の指導のもとに、穂坂自然公園内にもみじの木を植樹している。
- ② 上今井祭典（大山神社）に3年生の児童が招待され、地域の伝統行事について学んでいる。神聖な神楽殿に上らせていただきながらお神楽を見ることは、滅多にできない経験となっている。
- ③ 中学年が学区のサクランボ農園やブドウ園、農協選果場等を校外学習で見学し、地域の方から学び、この地域の特色である「穂坂果実郷」を自覚するとともに、地域の実態や産業について学ぶ機会となっている。
- ④ 読み語り講師を月毎に実施し、読書活動の推進を図り、地域のお年寄りから協力を得るなかで「昔の遊び」についても学習している。
- ⑤ 菊づくり指導者のもと、5年生児童を中心に菊づくりを行っており、毎年、開花した菊の鉢を市内各施設に飾り、感謝の言葉をいただいている。地域や保護者の中から「菊づくりボランティア」として数名が毎年協力してくださっており、学校と地域が一体となった取組の一つになっている。また、児童が招待者（外部講師や校外学習等でお世話になった方々）を考え、児童の言葉で招待することは意義がある。
- ⑥ 地域の病院のイベントや農協祭り、町の文化祭・体育祭等に参加して、踊りやブラスバンド演奏を披露し、地域の一員として活躍している。
- ⑦ 運動会の全校踊りや太鼓演奏に地域の講師を招聘し、住民とともに穂坂音頭を踊っている。
- ⑧ 公民館・PTA・学校が共催の「ふれあい教室」は、ライター教室（航空学園講師）、繭玉教室（公民館女性部）、木工教室、ミニ気球教室、和風教室、お手玉教室、壁飾り教室（PTA）の7つのブースに分かれ、親子3世代がそろって活動する貴重な体験・交流の場となっている。昼食は地区ごとに分かれ豚汁とおにぎりを食しながら、自己紹介や感想発表などを行い、地域及び三世代の交流を深める地域伝統行事となっている。
- ⑨ 地域ふれあい道德公開授業を実施し、地域の方を講師として授業を行っている。また、わかこま育成協議会の方々を招待し、道德授業や本校の取組について意見をいただいている。
- ⑩ 3月の中学校卒業式の午後、穂坂町育成会による「立志式」が行われる。来賓とともに小学校時の担任を招待し厳粛に開催している。学校が育成会の事務局を務め、育成会役員とともに運営にあたっている。中学生になっても「ふるさと穂坂が大好き」という声が毎年聞かれることはこの上ない喜びである。これからも郷土を愛する児童を育てていきたい。
- ⑪ 5年生の家庭科の授業では、初めて体験するミシンや手縫いの作業において地域の方々に支援をしていただいている。
- ⑫ 中学年の地域遠足に向けての合同事前学習会では、地域の方に見学地の説明をしてもらい、遠足に向けての意欲を高めた。
- ⑬ 5年生の総合的な学習では、地域の方の田を借り「米づくり」を体験し、地域の「かかし祭り」には作品を出品した。これからも学習の成果を地域に発信していきたい。

(6) 少人数集団である小学校から、大人数の中学校へ進学した際、人間関係が築けず不登校になることの防止

- ① 互いに心を開き、良さも課題も認められる温かい学校・学級集団作りをめざし、また異年齢集団活動（わかこま体育や兄弟学級清掃及び児童会活動等）を積極的に取り入れたりと、ランチルームで全校一斉給食（シャッフル給食）を実施するなど、全校を意識した仲間づくりを行い、何でもわかり合える集団を形成している。
- ② 小中連携を積極的に推進し、行事等を見直しながら進学先の中学校の雰囲気を知ったり、慣れたりする活動を数多く取り上げてきた。例年3月には、中学校の校長先生に来校していただき、中学校生活について直接話し合える場を設定している。
- ③ 中学校の理科教員を招いての出前授業では、楽しい実験や化学現象に興味・関心が高まり、中学進学に向けて期待感がさらに膨らんだ様子であった。
- ④ 学校内外を問わず、様々な活動を通して自分を表現することができる体験や場を積むことを重視してきた。地域においても人前で臆することなくコミュニケーションがとれる児童を目指して、今後も児童一人ひとりに自信を持たせていきたい。
- ⑤ 小集団の良さを生かして自分を発揮する経験を積む活動を、学校行事や児童会行事の中に積極的に取り入れ、自己肯定感を育ててきた。学校行事等における「児童の発表の場」は、児童全員が関わることができ、個々の表現力を高めるうえで大きな成果となっている。

(2) 成果物等

- ・ICT機器活用ハンドブック 2018
- ・ICT機器活用記録票
- ・授業公開・実践発表会資料

(3) 今後の取組予定

- ① 一人一台iPadの整備が完了し、さらに「触れる・慣れる・親しむ」機会を数多く持たせることが可能となった。児童のみならず教師も積極的に活用できる学習のあり方を追究（授業改善）していくことが必要である。
- ② これからも学習支援アドバイザーによる研修の機会を数多く持ち、教師のICT活用法をさらに深めたり、遠隔授業を積極的に取り入れたりしながら、より多くの授業実践や指導方法の開発（一斉学習・個別学習・協働学習）に努めたい。
- ③ ICTの活用実践記録が偏った領域にならないように、多方面において教師の指導力を高めていくことが大事である。
- ④ 地域との連携については、これまで積み上げてきた成果を推進・継続していくだけでなく、より多くの地域の声を吸い上げながら、魅力ある学校を目指していく必要がある。